

第4回 日本医薬品安全性学会 学術大会 2018



日時

8/18・19
土 日

会場

倉敷市芸文館
〒710-0046 岡山県倉敷市中央 1-18-1

Drug Safety の
新時代を開く
—症例報告から
ビッグデータまで—

美観地区

教育講演

「医薬品安全における薬剤師の役割
～チーム医療における立ち位置を変える～」
狭間 研至 (ファルメディコ株式会社 代表取締役社長 | 医師)

特別講演

「ビッグデータから見る医薬品安全性：現状と展望」
中山 健夫 (京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻・健康情報学分野)

シンポジウム

「地域連携を通じた医薬品の安全性確保
～高齢化社会を迎え、ポリファーマシーとどう向き合うか?～」
高柳 和伸 (倉敷中央病院 薬剤本部)
石元 秀和 (トマト薬局 | 岡山県薬剤師会倉敷支部)

大会サイトはこちら



ワーク
ショップ
01

医薬品有害事例の
臨床解析スキルを身に付ける！
宇野 勝次

ワーク
ショップ
02

AMR(薬剤耐性)
対策のための抗菌薬適正使用
支援について考える
奥田 敏勝 / 田坂 健

ワーク
ショップ
03

重篤副作用に
いち早く気付くための実践演習
～こんな時、薬剤師としてあなたはどのように?～
小茂田 昌代 / 尾関 理恵

大会事務局：公益財団法人 倉敷中央病院 薬剤部
〒710-8602 岡山県倉敷市美和 1-1-1
Tel：086-422-8840 Fax：086-425-2106
E-mail：jasds4th@kchnet.or.jp

運営事務局：株式会社メディセオ 学会支援部
〒104-8464 東京都中央区八重洲 2-7-15
Tel：03-3517-5519 Fax：03-3517-5186

1日目 平成30年8月18日(土)

	第1会場 ホール (500)	第2会場 アイシアター (150)	第3会場 202会議室 (100)	第4会場 203会議室 (90)	ポスター展示会場 第1練習室・第2練習室	企業展示会場 1Fロビー
8:30						
9:00						
9:30			9:00-10:00 評議委員会		9:00-10:00 ポスター受付・貼付	9:00-10:00 企業展示・搬入
10:00	10:00-10:10 開会式					
10:30	10:10-12:10 シンポジウム1 防げ! 薬剤性腎障害 (DKI: drug induced kidney injury) ~薬剤師の実践行動計画~					
11:00	オーガナイザー: 平田 純生/古久保 拓 座長: 和泉 智/小林 道也 演者: 平田純生 古久保拓 田中雅幸 浦田元樹 近藤悠希			10:10-12:10 ワークショップ1 医薬品有害事例の 臨床解析スキルを身に付ける オーガナイザー: 宇野 勝次		
11:30						
12:00						
12:30	12:30-13:30 ランチョンセミナー1 非小細胞肺癌における免疫チェックポイント阻害剤のこれまでにこれからの 座長: 千堂 年昭 演者: 堀田 勝幸 共催: 小野薬品工業	12:30-13:30 ランチョンセミナー2 薬物治療マネジメントにおける薬剤師の役割を考える ~HIV陽性者の服薬支援の実際から薬剤師のあるべき姿を考える~ 座長: 高柳 和伸 演者: 矢倉 裕輝 共催: 豊原薬品株式会社	12:30-13:30 ランチョンセミナー3 大切にしたい自分の体 ~2度の子宮がんを経験して~ 座長: 森 英樹 演者: 原 千晶(タレント) 共催: ニプロ株式会社			
13:00						
13:30						
14:00	13:40-14:05 大会長講演 Drug safetyの新時代を開く -症例報告からビッグデータまで- 座長: 小茂田昌代/演者: 高柳和伸	13:40-15:40 シンポジウム2 医療機関と保険薬局の連携が支える がん薬物療法の安全性の向上と その先に見えるもの	13:40-14:40 一般演題 1		10:00-18:40 ポスター展示	10:00-18:40 企業展示
14:30	14:10-14:35 理事長講演 倫理剤アレルギーから見える医薬品副作用の発症機序の新分類の提案 座長: 高柳和伸/演者: 宇野勝次	オーガナイザー: 松井 礼子 座長: 松井 礼子/下川 友香理 演者: 日置 三紀 本田 雅志 松井 礼子 村田 勇人	14:40-15:40 一般演題 2			
15:00	14:40-15:35 教育講演1 添付文書改訂情報の実際 -PMDAからのメッセージ- どのように改訂され、現場でどのように利用できるのか? 座長: 杉山 哲大 演者: 近藤 恵美子					
15:30						
16:00	15:40-16:40 特別/教育講演 ビッグデータから見える医薬品安全性: 現状と展望 座長: 高柳 和伸 演者: 中山 健夫					
16:30						
17:00	16:45-18:30 シンポジウム3 Real World Data の利活用に向けて オーガナイザー: 徳増 裕宣/高柳 和伸 座長: 岸 達生/高柳 和伸 演者: 小宮山 靖 陰山 卓哉 徳増 裕宣	16:45-17:45 スイーツセミナー 座長: 森 英樹 共催: 東和薬品	16:40-17:40 一般演題 3	16:40-18:40 ワークショップ 2 AMR対策のための 抗菌薬適正使用支援について考える オーガナイザー: 奥田 敏勝/田坂 健 チューター: 奥村 佳史 鳥越 史宙 佐藤 可奈 長永 淳史		
17:30						
18:00			17:40-18:40 一般演題 4			
18:30						
19:00						

送付先：大会事務局 jasds4th@kchnet.or.jp

提出期限：平成 30 年 4 月 20 日(金)

第 4 回日本医薬品安全性学会学術大会

セッション企画書

必要事項をご記入の上、大会事務局へメールにてご提出ください。

※所属は、施設名・所属に加え、出来れば役職までお分かりの範囲でご記入ください

※各自のメールアドレスを出来るだけご記入ください

※企画内容など、実施の概要は、後日でも結構です。また、別に作成された資料をご提示いただいても結構です。

提出日 平成 30 年 月 日

セッション名	シンポジウム 2
セッションテーマ (タイトル)	医療機関と保険薬局の連携が支えるがん薬物療法の安全性の向上とその先に見えるもの
日時	日時：8 月 18 日 (土) 13:30 - 15:30 セッション時間：120 分
オーガナイザー 1	氏名：松井 礼子 所属(役職)：国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院 薬剤部 住所：〒277-8577 柏市柏の葉 6-5-1 E-mail：rmatsui@east.ncc.go.jp
オーガナイザー 2	氏名： 所属(役職)： 住所：〒 E-mail：
座長 1	氏名：松井 礼子 所属(役職)：国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院 薬剤部 住所：〒277-8577 柏市柏の葉 6-5-1 E-mail：rmatsui@east.ncc.go.jp
座長 2	氏名：下川 友香理 所属(役職)：総合メディカル株式会社 そうごう薬局天神中央店 住所：〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 1 丁目 3 - 3 8 天神 121 ビル E-mail：yukari.shimokawa@sogo-medical.co.jp
シンポジスト 1	氏名：日置 三紀 所属(役職)：三重大学医学部附属病院 薬剤部 住所：〒514-8507 三重県津市江戸橋 2 丁目 174 番地 E-mail：hiokimiki@clin.medic.mie-u.ac.jp 演題名：薬剤師がともに支えるがん薬物療法—連携の深化に向けた取り組み—
シンポジスト 2	氏名：本田 雅志 所属(役職)：総合メディカル株式会社 そうごう薬局天神中央店 住所：〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 1 丁目 3 - 3 8 天神 121 ビル E-mail：masashi.honda@sogo-medical.co.jp 演題名：医薬連携から得た情報を十分活用するために～保険薬局における取り組み～
シンポジスト 3	氏名：松井 礼子 所属(役職)：国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院 薬剤部 住所：〒277-8577 柏市柏の葉 6-5-1

	E-mail : rmatsui@east.ncc.go.jp 演題名 : 病院と保険薬局間のプロトコールに基づく経口抗がん薬治療管理の効果を検証する調査(病院薬剤師より)
シンポジスト 4	氏名 : 村田 勇人 所属 (役職) : クオール薬局港北店 住所 : 〒224-0032 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 36-6 E-mail : hayatomurata62@yahoo.co.jp 演題名 : 病院と保険薬局間のプロトコールに基づく経口抗がん薬治療管理の効果を検証する調査(保険薬局薬剤師より)
シンポジスト 5	氏名 : 所属 (役職) : 住所 : E-mail : 演題名 :
シンポジスト 6	氏名 : 所属 (役職) : 住所 : E-mail : 演題名 :
企画概要 セッションのねらい	昨今、外来がん化学療法が主流となり、保険薬局にて副作用に対する支持療法薬や経口抗がん薬を含む処方せんを応需し、患者対応を行う機会が増えつつある。このことより、医療機関と保険薬局の連携の必要性がより一層に重視されて来ている。本シンポジウムは、医療機関と保険薬局の連携を先進的に実践されている取り組みの発表と、地域での PBPM (Protocol Based Pharmacotherapy Management) を用いた連携の効果を検証した調査を紹介し、患者の安全性の向上と患者の安心感を支える連携のあり方を共有し、その後の発展に向けたディスカッションを行う予定である。
備考 ※特記事項	